

雑誌「太陽」を読む

萩原 義雄

http://www.books-yagi.co.jp/pub/pages/taiyou/TAIYOU_02.HTML

・上記のURLアドレスをクリックし、リスト中の「個別題」の項目をそれぞれクリックすると、画像ファイルを閲覧することができます。

・画像PDFデータは容量がメガバイトを超えるものもあります。ブロードバンド環境では快適に閲覧いただけますが、ダイヤルアップでの閲覧では、数分時間がかかることがありますのでご了承ください。

・本サンプル画像は、製品版と同質の画像を以て収録しております。

・ただし、製品版とは仕様が大きく異なり、書誌データの検索、多彩な印刷機能等の便利な機能はご利用になれません。製品版の仕様については、「製品版紹介」の概要、及びソフトの各ページをご覧ください。

巻号	発行年月日	分類+総題	個別題	執筆者名
1	1	明治28年1月1日	表紙	佐久間文・表紙

1	1	明治28年1月1日	太陽の発刊	大橋新太郎・発刊の辞	1
1	3	明治28年3月5日	北里博士の伝染病研究所		180
1	10	明治28年10月5日	探検及び移動の方針	志賀重昂	7
2	1	明治29年1月5日	海城発電	泉鏡花	160
2	4	明治29年2月20日	主婦となりし女学生の経験	若松賤子	151
2	20	明治29年10月5日	立憲的専制国	尾崎行雄	1
3	1	明治30年1月5日	那波翁大帝	戸川残花	129
3	9	明治30年5月5日	営業税の弊害、俗吏の悪風	島田三郎	1
3	18	明治30年9月5日	仏教各宗本山の通弊を論じて内地雑居の準備に及ぶ	井上円了	10
3	24	明治30年12月5日	祭森田思軒文	依田学海	214
4	4	明治31年2月20日	国民党の本分	中江兆民	4
4	6	明治31年3月20日	疾病に対する思想の変遷を論ず	田中祐吉	16
4	9	明治31年4月28日	東京奠都事情	伯爵大隈重信	98
4	20	明治31年10月5日	上野動物園の奇観（*写真六點）	大橋乙羽	口絵
5	9	明治32年4月25日	音楽と最大快楽	伊沢修二	1
5	10	明治32年5月5日	音楽の改良に就て	外山正一	160
5	14	明治32年6月20日	市川團十郎茅ヶ崎別荘（*写真）	大橋乙羽	口絵
5	25	明治32年11月20日	仏国巴里サンミシエル街（*写真）		14
6	1	明治33年1月3日	日露戦争未来の夢西伯利亞鉄道	サマーロフ	63

6	2	明治33年2月5日		東京の新年（*写真四点）	口絵
6	6	明治33年5月1日		巴里大博覧会電気宮並に水殿（*写真）	口絵
7	5	明治34年5月5日		人力車廃止論	国府犀東・198
8	1	明治35年1月5日		中央亜細亜紀行	福島安正・161
8	7	明治35年6月5日		台湾経営論	後藤新平・6
9	3	明治36年3月1日		公衆電話の注意	局外閑人・221
10	3	明治37年2月1日		露骨なる描写	田山花袋・157
10	12	明治37年9月1日		聖路易大博覧会日本部（*写真二点）	口絵
10	15	明治37年11月20日		六大戦闘艦の旅順口封鎖（*写真）	口絵
11	5	明治38年4月1日		ルーテルの説話（ローランス筆）（*絵画）	口絵
12	3	明治39年2月20日		M Jean Paul Laurens	口絵
13	11	明治40年8月1日	清国時文欄	足尾銅山の現況（*写真四点）	口絵
14	1	明治41年1月1日	文芸時評	崇拜孔子理由	加藤弘之・81
15	1	明治42年1月1日		現実暴露の悲哀	長谷川誠也・153
15	7	明治42年5月15日		ミランの大カセドラル（内外皆な大理石）	
15	11	明治42年8月1日		／ゼノアのコムポザント（世界第一の彫刻美術館）（*写真二点・口絵）	
15	12	明治42年9月1日		登山鉄道と地下鉄道（*写真三点）	口絵
15	13	明治42年10月1日	文芸 戯曲	ジャンヌ、ダルク列聖式当日の盛況（*写真三点）	口絵
				米國太平洋岸に於ける帝国外交官（*写真）	口絵
				家常茶飯	ライネル・マリア・リルケ・97

16	2	明治43年1月20日		表紙（*カラー画像）	表紙
16	3	明治43年2月1日		『そら出た』（*写真）	ゲルベルト 口絵
16	11	明治43年8月1日	学芸	最新式潜航艇の頭出	某工兵大尉・157
16	13	明治43年10月1日		山田式空中船と内田式飛行機（*写真四点）	口絵
16	13	明治43年10月1日		千里眼婦人御船千鶴子（*写真三点）	口絵
16	14	明治43年11月1日		近世技術界の大活動（*写真六点）	口絵
16	14	明治43年11月1日		市俄古対早慶大学野球試合（*写真三点）	口絵
16	15	明治43年11月10日		殖民地市街の今昔（*写真四点）	口絵
16	16	明治43年12月1日	学芸	最近の大発明写真電送機	167
17	1	明治44年1月1日		英国議員雜観（*写真七点）	口絵
17	1	明治44年1月1日		最近南滿洲通信（*写真七点）	口絵
17	2	明治44年2月1日		俳優の舞台顔（其一）（*写真四点）	口絵
17	2	明治44年2月1日		活動写真界の活動	高橋迎月・157
17	3	明治44年2月15日		老探偵の眼に映じたる現代社会	某老探偵・159
17	5	明治44年4月1日	南北朝史論	教科書に於ける南北正閏問題の由来	三上参次・124
17	6	明治44年5月1日		理学者の見たる千里眼問題	中村清二・70
17	7	明治44年5月15日		初夏の郊外（*写真三点）	口絵
17	8	明治44年6月1日		ロオズヴェルトの野外演説（*写真）	口絵
17	15	明治44年11月15日		武装の平和（*写真三点）	口絵
17	16	明治44年12月1日		清国革命動乱（漢口）（*写真六点）	口絵

18	1	明治45年1月1日		猫一疋の力に憑て大富と成し人の話	南方熊楠	162
18	6	明治45年5月1日		大總統就任後の袁世凱氏（*写真）	口絵	
18	9	明治45年6月15日	評論	二十五名士 団十郎の追憶	坪内逍遙	175
18	16	大正1年12月1日		飛行機と飛行船の優劣	薄井秀一	177
19	8	大正2年6月1日		仏領に墜ちたる独逸飛行船（*写真）	口絵	
19	12	大正2年9月1日	<small>瀬戸内海 風景論</small>	色彩の弱い瀬戸内	石川寅治	90
19	13	大正2年10月1日		ヒステリー性の婦人	杉江董	168
19	16	大正2年12月1日		電灯問題	小川郷太郎	62
20	11	大正3年9月1日		歐洲大戦乱の真相	長瀬鳳輔	73
21	1	大正4年1月1日		婦人界評論 鏡心燈語	与謝野晶子	
38	21	大正4年2月1日		歐洲出兵論を葬る（其一） 売名弄兵の亡国論	某海軍将官	129
21	8	大正4年6月15日		表紙（*カラー画像）	久保田米斎	表紙
22	9	大正5年7月1日		東西文明の代表者 飛行家スミスと詩聖タゴール	浮田和民	2
23	1	大正6年1月1日		漱石先生と門下	森田草平	129
26	8	大正9年7月1日		マルクス主義と文化価値の観念	野村兼太郎	127
27	14	大正10年12月1日		凶刃に殪れし原首相と新首相（*写真四点）	口絵	
28	10	大正11年8月1日		森鷗外先生の追憶	与謝野寛	50
29	2	大正12年2月1日		国際連盟の現状と其の将来	米田実	2
30	8	大正13年6月15日		科学小説	エッチ・ヂ・ウエルズ	222
31	2	大正14年2月1日		怪星	口絵	
31	7	大正14年6月1日	滑稽小説	博愛数学講座	オ・ヘンリー	56
31	9	大正14年7月1日		大衆文学の傾向を如何に見るか大衆文学は小乗文学	加藤武雄	180
31	11	大正14年9月1日		アムンゼンの北極探検（*写真五点）	口絵	
32	1	大正15年1月1日		プロレタリアの文学運動	平林初之輔	58
32	4	大正15年4月1日		飛行船の発達		119
32	13	大正15年11月1日		テレヴィジョン（*写真）	口絵	
33	7	昭和2年6月1日		「プチ・帝国主義」論批判——高橋亀吉氏の所論を駁す	野呂栄太郎	2
34	1	昭和3年1月1日	特別読物	百年後の世界 医学上より見たる百年後の人間	小酒井不木	191
34	2	昭和3年2月1日		本誌の休刊に際して	平林初之輔	258

ここに、一覽しておいた雑誌「太陽」のPDF資料は、実際に入力作業が済み、この作品著作者及び著作者遺族からすべての許諾を得られたうえで公開された内容であることを知っておいて欲しい。施線のある箇所は、その内容をリンクしてあって、データを読み取ることができるようになっている。このデータを現代の私たちが解読し、テキストデータ化された活字資料は、膨大な近代国語資料となっている。ただし、あくまで有料化データであって、個人が使用するにはまだ至っていないのが現況である。

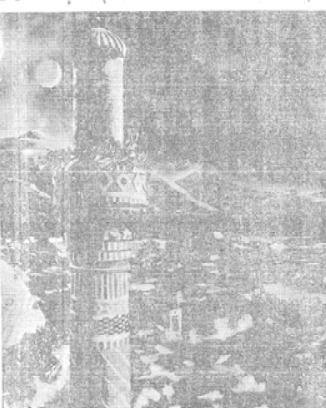
ここで、見本として見ることが出来る上記資料部分だけでも調査して見ておくだけでも、その氷山の一角が見えてこやうというものである。



科学小説の巨匠として知られるエッチ・ヂェルムズは、この小説で、人類の未来を予言する。...

科学小説の巨匠として知られるエッチ・ヂェルムズは、この小説で、人類の未来を予言する。...

科学小説の巨匠として知られるエッチ・ヂェルムズは、この小説で、人類の未来を予言する。...



ここで一つだけ例にして、右に掲載した箇所は、大正13年6月15日 エッチ・ヂェルムズの『科学小説『怪星』の冒頭書き出しの部分である。この時代は、「SF小説」という分類ジャンルは、「科学小説」ということばで表している。この文章の書き出しはこうだ。

「それは一月一日のことだった。同時に三つの観測所が、太陽を廻る遊星の中で最も外側に在る海王星の運動の異常になつて来たことを発表した。」

この文章が川島章の手により日本語に翻譯されている訣だが、素直な日本語で表現されていることに気づく。この最初の「一月一日」の箇處に、漢数字の部分を除いて傍訓が凡てに施されていることに気づかされるのである。今、私の記述している文章にも同様な記述方法で正字体の漢字表記に傍訓を附した解説にしていることに些か戸惑うかも知れないが、このような舊表記の文體には、矢張り傍訓が必要であることをまず感得していただくことが主なねらいにあることを先ず触れておくことにする。

近代日本にあって明治・大正・昭和の二十年代迄を通してこうした表記法が日本人であればさほど苦もなく読みこなし、且つ又、書き記してきたのである。この文章内容について現代を生きるあなた方は、今このようにして出会ってどのように向き合っていくことができるのだろうか……。

そして、この雑誌「太陽」という文献資料を紹介し、貴方がたと一緒に向き合うことのできる吾人は、多くの若者がこうした文章に慣れ親しみ、先人の賢察ある智慧の寶藏に一歩ずつ慌てることもなくゆっくり歩みだし、直に觸れて、その感覚を研ぎ澄まし、とことんその時代を吹き渡ってやまない息吹きを味わってみたいのである。

この資料の全貌が近年、日本近代文学館の主幹で CD-ROM 版として公開されたことは實に嬉しい。だが、こうした資料は、電子版とはいえ、實に高價なものであることは云うまでもない。一個人で所蔵し、利用するなど遠い先の話である。であるからして、各大學圖書館が常に利用者の窓口を廣くして多くの若き學習者に利便に閱覽できる仕組みが整うことを願うのである。本学でも二〇〇八年・二〇〇九年、大學圖書館にこのデータ資料の購入を申請したが、採択されずじまいにある。

本日の資料は、見本版からの引用利用であったが、全文を読める日が既に訪れてきている。この文献データ資料は、独立行政法人国立国語研究所の所員プロジェクトにより、その九分九厘をデータベース化していることは、観る側にとつて最大の支援力となつてきている。そのうえで、これらデータベース内容を研究所が綜合開發した検索ソフト「ひまわり」を用いることで、その状況を即座に解析できるようにもなっている。

ただし、この雑誌「太陽」の全データ文章そして写真掲載の画像資料を直接そのまま用いることは現在の所では許されていない未公開型データベースであることとはいかしがたい難点でもある。このため、使用状況そのものが半減しているといつてよからう。特定の研究者にだけによる考察報告書を見つめていたのでは、現代語の国語基盤を知る手がかりを得ていない、まさに寶の山にあつて宝を見ずに等しい。そこで、PDF 版から文章資料内容を直接再度入力し直してでも、この雑誌「太陽」のデータそのものを用いることで、その運用機能のことば実態そのものを確かめることができるからだ。この作業を試みることで雑誌「太陽」に記述された現代語の有する単に文学作品だけではなく、文化・芸術・人類科学の用語の有する総合媒体雑誌による広範圍の領域をモチーフとした日本語の特性を直接自らが学ぶことを行うべきだと考えるからである。

この開発検索ソフトである「ひまわり」を実際に運用してみることで、雑誌「太陽」のことば表現をそれぞれが読みあうことから、現代日本語のことば表現の際だった特徴について学ぶことを實際に試みることを主たる目的としたものである。

《参考文献資料》

『明治六合雑誌』『和英語林集成』

◆鈴木貞美著『雑誌「太陽」と国民文化の形成』〔思文閣出版・二〇〇一年刊・616頁〕

◆国立国語研究所編『雑誌「太陽」による確立期現代語の研究』…「太陽コーパス」研究論
文集